

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	公衆衛生看護展開論				
担 当 者	伊東愛				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.0	4.4	4.1	4.1	4.0	
学生へのメッセージ					
限られたコマ数の中で、保健師の免許取得に必要な内容を講義するため、どうしてもタイトになります。看護の授業後の5限などに行われる授業で、大変だったと思います。演習や実習で必要となる知識を盛り込んでいますので、保健師に興味・関心を持っている学生には、連動性を感じてもらえたと思います。1年後の実習に活かしてもらえたらと思います。					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	公衆衛生看護展開論演習				
担 当 者	伊東愛・魚崎須美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.3	3.9	3.4	3.8	3.6	
学生へのメッセージ					
保健師の免許取得に必要な技術を習得してもらうため、本当はもっと多くの演習を取り入れたところではありますが、保健師に必要な内容を選びすぐり、演習を行っています。看護の授業後の4・5限など、疲れた中で演習に取り組んでくれていたことと思います。保健師に必要な思考、技術を演習として取り入れていますので、個人の取り組みはもちろん、グループワークも必要となりますが、今年は例年に比べてグループの取り組みがゆっくりで、ディスカッションもあまり活発ではなかったように思います。早めに課題提示をしていましたので、個人の取り組みや時間管理の工夫をしてもらえたらと思います。					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	臨床検査総論				
担 当 者	溝越祐志、砂見愛子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.5	4.6	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
8 回分の講義お疲れ様でした。臨床検査に関する授業内容はいかがでしたでしょうか。皆さんにとっては専門外であり、馴染みがない分野に少し戸惑ったかもしれません。患者さんをケアするため、実技だけでなく人の心理面など、多岐にわたる分野を修得しなければならない皆様は大変であり偉大だと、看護学科のシラバスを眺めながら感じていました。そのような皆様にとって、今回の分野は主軸を置くようなものではないと思います。ただ、もし余裕がある場合は、患者さんの症状が体内のどのような変化の結果起きているかを考えるようにしてみてください。体内の変化を考える力がつけば、患者さんをケアするうえでもとても役に立つと思います。 「説明がわかりやすく面白い授業でした。」「授業資料がお二方ともすごく見やすかったです。」というコメントをいただきました。今後も両教員ども、資料のブラッシュアップに努め、よりわかりやすい授業を展開できるように精進したいと思います。 また改善点としては「プリントの色が多くてポイントが少し分かりにくい。」「小テストのやり方を変えた方がいいと思う。」意見をいただきました。貴重な意見ありがとうございます。 「プリントの色が多くてポイントが少し分かりにくい。」というのは溝越の資料に対する意見だと思います。私自身、昔、色が多い資料は見にくいと思っていたのに、気づいたら色が多い資料を作ってしまったようです。こちらの意見に関しては色が多いとポイントがわかりにくいというのは私自身も昔感じていたことですので、初心に戻って資料を見直したいと思います。「小テストのやり方を変えた方がよい」という意見に関しては、可能ならばどのような問題点があり、どう変えればよいかまで記していただけたら、もっとありがたかったかなと思います。ただ、小テストの存在自体見直してみようと思います。 検査値というものは、知識として知るだけでなく、その知識を利用、応用して病態を考えて初めて有用なものとして使われるものと考えています。検査値から病態を推察することはとても難しいことと思いますが、仕事をしていくうえで、看護師がその力を持っていると、他の人と比べて大きなアドバンテージになると思います。ぜひこの授業の単位のための知識ではなく、働くうえでの知識として、今後検査値の意味を頭に定着していただけると嬉しいです。					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	4		
科 目 名	災害看護学				
担 当 者	立垣 祐子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.0	4.7	4.7	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
授業評価アンケートへの協力ありがとうございました。60名の履修生に協力いただけたことをまず感謝いたします。Ⅰ 学生自身＝4.0(学科平均 3.8)，Ⅱ 授業内容＝4.7(学科平均 4.4)，Ⅲ 授業方法＝4.7(学科平均 4.4)，Ⅳ 学修成果＝4.6(学科平均 4.3)，総合評価＝4.7(学科平均 4.4)でした。自由記載では、この授業で良かった点として「国試を解きながら授業すると、知識も頭に入りやすく楽しくできた」、「実際に DMAT で働いておられる卒業生が来てくださって、授業していただいたのが良かった」、「大切なところがしっかり取り上げられていて、とてもわかりやすかった」等7名の方が感想を寄せられました。改善点としては「1402の音響設備たまにおかしいです。後ろまで聞こえなかったり、もごもごしたりと聞きづらい時がある」という教室設備に関するご意見を2名の方からいただきました。この点は、施設管理のほうにお伝えして点検していただくようにします。ご指摘いただくまで私自身は気づいていませんでした。申し訳ございませんでした。これから、多くの患者さんに出会われると思いますが、災害から患者さんを守ることはどのような領域の看護でも共通して求められることです。ぜひ、今後も災害看護を学び続けていただけるととても嬉しく思います。					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	家族看護学				
担 当 者	鈴木志津枝				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.4	4.5	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
臨床の実践の場において、家族看護学の理論や家族のアセスメント方法や援助方法の知識は、とても重要だと考えています。選択科目でしたが、昨年度の履修学生数よりも増え、59名の学生が履修してくれたことに対して、良かったと思っています。 当科目の平均は、学科平均とほぼ同等あるいはやや高い得点が得られ、特に、「授業は知的関心や好奇心を起こす内容であった」(4.46)や「授業内容をよく理解できた」(4.46)、「この授業を受けて満足している」(4.38)「授業内容は教員独自の意見や考えを適度に示し、心に響くものであった」(4.50)という設問への評価に関して、実践事例等の活用が良かったのかと思います。 鈴木の授業において、資料の色使いが多すぎて、どこが重要なのがわからなくなってしまうことや文字の量が多くてわかりづらいとの感想がありました。次年度に向けて、授業資料に関して、わかりやすい資料の作成を心がけたいと思います。 学生による授業評価にご協力いただきました皆様、ご協力ありがとうございました。皆さまのご意見を参考に、次年度の授業の内容や授業の仕方、授業資料などを改善していきたいと考えています。					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	看護研究方法論				
担 当 者	鈴木 志津枝				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.4	3.5	4.0	3.6	3.8	
学生へのメッセージ					
学生の授業評価にご協力いただきありがとうございました。 皆さんから授業評価に関して、私の考えを述べたいと思います。 学生自身の授業以外に学習した時間（平均 2.9）や意欲的に参加したか（平均 3.8）という設問に対して学科平均を下回っており、学習意欲を高めることができなかったことに対して、授業内容や課題の出し方の再検討が必要と思います。 授業内容に関しても、全ての設問に関して、学科平均を下回っておりました。授業内容に関して「授業はわかりやすい内容であったか」という設問に関して、どちらかというと思わない（7名）、そう思わない（6名）と回答された方がありました。難しいという意見が聞かれたときには、説明の仕方を検討し繰り返し説明しましたが、学生の理解を得るには、十分でなかったのだと思います。さらに授業内容の洗練化が必要なのだと思います。 授業方法に関して、看護論文を読解する授業や論文のクリティークなど、看護研究に対して知的関心や好奇心を持ってもらいたいと考えましたが、看護論文を読むことの難しさが影響したのか、知的関心や好奇心に結びつかなかった学生もいました。4年生になって、看護学研究を実施する時には、学んでいただいたことが役に立つと思いますので、根気よく、看護論文をクリティークできるようになっていただきたいと思います。 学生の自由筆記の内容で、授業資料（パワーポイントの資料）のわかりにくさや文字の多さ、授業内容の難しさ、授業資料と実際の進行のずれに関する意見がありました。私自身、授業資料に教科書だけでなく、さまざまな文献からの説明文を入れてしまう傾向があり、文字が多くなったと思います。授業資料に関して、再度、検討していきたいと思います。					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	法と看護				
担 当 者	鈴木 志津枝				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.4	4.1	4.2	4.1	4.0	
学生へのメッセージ					
授業評価にご協力いただきました学生のみなさま、ご協力ありがとうございます。 回答者数が 92 名の履修のうち 21 名の学生の回答で、回答いただけなかった学生の方々の意見が得ることができず、やや残念に思いました。 当科目の分野ごとの平均は学科平均よりも全般的に低く、学生の皆さんからの授業評価に基づき、私の考えを示したいと思います。 学生自身が授業以外に学習した時間が平均 2.57 と低く、自己学修に関してモチベーションを高めることができなかったと考えます。次年度以降、学習意欲を高めていくための方法を検討したいと思います。看護に関連する様々な法律を授業で説明したため、少数の学生ですが、「わかりやすい内容であったか」や「知的関心や好奇心を起こす内容であったか」という設問に関して、そう思わないという意見もあり、授業内容を再検討する必要があると思いました。 学修成果として、「自分で調べ、考える姿勢が身についたか」という設問に関して、平均 3.95 と低く、講義中心にすすめたことへの評価だと思います。次年度は、自己学修できるようにグループワークや課題、学生のプレゼンテーションなどを工夫したいと考えます。 学生の自由筆記の内容ですが、講義中心の授業展開であったため、「面白くない」「声のトーンが一定だから頭に入っていない」「レジュメを読んでいるだけ」との意見があり、真摯に受け止め、次年度までにどのように授業展開するかを考えていきたいと思っています。他の意見として、質問に真摯に答えてくれたり資料を補足してくれたりしたので、勉強する意欲が湧いてきたという肯定的な意見もあり、次年度以降も学生の意見を大切にして、授業に反映していきたいと思っています。					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	4																				
科 目 名	異文化看護																						
担 当 者	黒野利佐子																						
カテゴリー別授業評価調査結果																							
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)																			
4.4	4.5	4.3	4.6	4.5																			
学生へのメッセージ																							
①メールアドレス riskurono`kobe-tokiwa.ac.jp ②科目の基本情報：：異文化看護・開講学科：看護学科 開講年次：4年 時期：前期前半 ③学生による授業評価の結果（カテゴリー別評価結果）入力済み <table><tr><td>分野</td><td>当科目平均</td><td>学科平均</td></tr><tr><td>I. 学生自身</td><td>4.4</td><td>4.8</td></tr><tr><td>II. 授業内容</td><td>4.5</td><td>4.4</td></tr><tr><td>III. 授業方法</td><td>4.3</td><td>4.4</td></tr><tr><td>IV. 学習成果</td><td>4.6</td><td>4.3</td></tr><tr><td>V. 総合評価</td><td>4.5</td><td>4.4</td></tr></table> ④学生へのメッセージ 異文化看護の受講ありがとうございました。 今年は月曜日の2時間目に必修の災害看護の後 3時間目に授業時間が組み込まれたこともあって59名という過去最多数の学生さんが受講くださいました。授業評価の方で「【発表の】時間がパンパンだった」、「授業時間の延長はよくないと思う」と意見くださった学生さん方、これでも授業内容を前年度より一つ（ルワンダの涙 という 1995 年ルワンダの虐殺のドキュメンタリー映画鑑賞会）減らし、発表の時間に充てて対応したのですが、熱心な皆さんの発表を途中で時間だからと中断することができず、時間通りに終われなかった時もありました。まあ、ただし、こうした時間の余裕、心の余裕をお持ちでない方、時間管理の方が様々なことを知って考えることより大切な方は、そもそもこの異文化看護の受講をお勧めいたしません。「後半課題別実習の集まりなどで忙しかった」、や、「何回も面談に行かないとならなかった」、と意見くださった学生もおられましたが、発表の順番も面談をして内容を3回程度確認することは最初の授業で皆さんに手渡したシラバスで説明しており、面談は5月11日から始め、自分たちで計画して進められるようにサインアップ方式で面談予定をいれていました。中には一回目の打ち合わせだけで、次の時に発表レベルに達して面接が二回だけの学生もおられました。二回リハーサルしたけれどあまり助言を聞いていただけず、突破された学生もおられましたが、自分						分野	当科目平均	学科平均	I. 学生自身	4.4	4.8	II. 授業内容	4.5	4.4	III. 授業方法	4.3	4.4	IV. 学習成果	4.6	4.3	V. 総合評価	4.5	4.4
分野	当科目平均	学科平均																					
I. 学生自身	4.4	4.8																					
II. 授業内容	4.5	4.4																					
III. 授業方法	4.3	4.4																					
IV. 学習成果	4.6	4.3																					
V. 総合評価	4.5	4.4																					

たちの準備性、タイムマネジメントの在り方を棚上げしたままの意見はいかがなものか、と思います。この科目は国家試験に直接関係しませんが、それだけにしっかり発表内容を確認して成績はA以上を目指して戴けるよう協力させていただいたつもりです。悪しからずお受け止めください。

大半の方々が多種多様な国際保健問題、労働と保健や、美とエンハンスメント医療、先進医療、環境問題と保健、戦争や経済政治と保健のような大きな枠組みでテーマに挑んでくださって、講義を受け、自分たちの発表をして聴講しあった後、すこし違った角度で社会現象や健康というものを考えられるようになっていらっしゃったらいいなあ、と祈念いたしております。

黒野利佐子

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	在宅看護学概論				
担 当 者	庄司やすえ				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.6	4.6	4.5	4.7	
学生へのメッセージ					
在宅看護は、今後看護にとって重要な位置を占めることと考えます。今まで病院看護が主流であったのですが、皆様にも教授した社会の変化とともに、看護の考え方も変化していきました。この単位では、退院してからの患者の継続看護や、在宅でおられる高齢者、障がいのある人びと、そして病気や障がいを持っている子どもたち、精神疾患を抱えながら在宅で暮らしている人々など、多様な状況の人びとに看護が必要となっている現状について学んだと思います。 後期は在宅特性論がありますが、在宅看護の制度について覚えていただき、特徴となる状況を皆様と一緒に考えていこうと思います。この状況を通して３年生の援助論に繋がめますので、しっかり学んでください。特別な人ではなく身近におられる生活者への看護を考えていきましょう。					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	緩和ケア				
担 当 者	堀理江、野田部恵、柳田千代美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.6	4.7	4.4	4.7	
学生へのメッセージ					
真摯に授業に臨まれており、小テストや定期テストの点数も良い傾向にありました。「学生自身が、授業以外に学修した時間」の項目での点数が非常に低いことが本科目の課題です。3 年前期は他の科目の課題が非常に多い印象で、できるだけ講義内で完結するような授業を心掛けましたが、学生の皆さんの主体性を育む配慮に欠けていたと考えます。次年度からは課題を明確にして、少しでも自主的に緩和ケアに関する学習を積んでいただけるよう工夫します。					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	精神援助論				
担 当 者	江口実希				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.3	3.8	3.7	3.8	3.7	
学生へのメッセージ					
授業に関する考えをお聞かせいただきありがとうございました。 課題提出について、昨年度の学生さんの要望（講義終了後から実習開始まで事前課題がの提出期限が重複しており、十分に課題に取り組む時間がないので、早めに課題を提示し提出させてほしい）を参考に今回は、講義初回に課題の内容と提出期限を提示いたしました。 しかし、4月～7月においても他の講義の課題が重複しているとの情報も講義中にお伺いしました。つきまして、次年度以降は皆さんの講義中に寄せられた「8月に課題に取り組みたい」というご意見も参考に、提出時期について検討したいと思います。 また、グループワークに関しては、グループワークの途中成果を発表する時間を取り入れ、細かく時間を区切り、皆さんがいろいろな考えに触れ、メリハリを持って演習が行えるように検討したいと思います。 貴重なご意見ありがとうございました。					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	4		
科 目 名	国際保健医療活動Ⅰ				
担 当 者	坂本秀生				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.8	4.4	4.4	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
国が変われば、医療制度も変わります。いつでもどこの病院へ自由に受診できる日本では当たり前な国民皆保険、医療費も３割負担で済む。こんなに恵まれた国は世界でも珍しい。 このような素晴らしい医療を享受できているのは、医療従事者の献身的な働きがあるからこそである。それに甘えて日本人は些細なことで受診する傾向があり、本当に医療を必要とする人へのしわ寄せが及ぶこともある。 日本の良さを認識し、諸外国から学ぶこともあることを本授業で理解し、皆さんが実社会でも様々な考え方に対応出来ることを願っています。					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	看護対象論Ⅴ				
担 当 者	横山利枝				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.1	4.6	4.5	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
この授業は、子どもの成長発達の特徴を理解し、子どもの健やかな成長発達を促すために必要な日常生活支援について学ぶことを目標にしています。 各成長発達段階にある子どもの特徴を理解し、子どもの持つ力と健やかな成長発達を促すために必要な看護の役割について考えてほしいと思っています。また、子どもに特徴的な症状について学び、子どもの健康状態をアセスメントするために必要な知識を理解して、次に学ぶ小児援助論につながるように考えています。 事前課題をもとに予習をして授業に臨み、事後課題で授業の内容の復習をし、主体的に取り組むことで理解を深めてほしいと思っています。事前課題、事後課題を何のために行っているのかを考えて計画的に学習ができればと思います。 今年度は、子どもの理解を深めることを目的に健康教育を取り入れました。前半の講義の内容を踏まえて取り組めるように計画しましたが、時間的にも制約がありましたが各グループが工夫をして発表ができ、成果がみられたと思います。この学習を実習につなげてほしいと思います。					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	小児援助論				
担 当 者	横山利枝				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.4	4.2	4.1	4.3	4.2	
学生へのメッセージ					
この授業は、小児看護学での既習内容を基に、健康問題や障害を持つ小児の特徴をふまえ、小児とその家族に必要な看護について理解することを目標にしています。 講義で学んだ内容をふまえ事例をもとに、健康問題を持つ小児と家族をアセスメントし、小児と家族の持つ力を最大限に発揮できるような看護を考え計画し、それに基づいた小児と家族への基本的な看護技術を身につけ実習につながるように考えています。 個人ワークとして自分で調べて考え、グループワークで学びを深めたり広げたりして対象理解を進め看護を考えるという思考過程を大切に学んできたと思います。 その学習過程がうまく進められるようより良い支援を今後も考えていきたいと思います。					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	教育社会学				
担 当 者	伴仲謙欣				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.3	4.6	4.7	4.9	5.0	
学生へのメッセージ					
履修生のみなさん、授業お疲れ様でした。そして、授業評価にご協力していただき、ありがとうございました。 この科目は教職課程科目ですので、通常の看護過程に加えた授業で、さぞ大変だったことと思います。さらにこの授業は、入学後に突然「教える」⇔「教えられる」という立場を共に経験する内容ですので、チャレンジングだったことと思います。授業準備にも苦労されたことでしょう。しかし、みんなが最後まで主体的にチームにコミットした結果、とても前向きな授業になったと思います。よくがんばりました！ぼくもみなさんの授業を聞いて楽しかったです。 看護と教職課程とのダブルライセンス取得は忙しいと思いますが、主体性をもって夢の実現のためにがんばってください。教職で学んだことが、必ず看護分野でも役に立つはずですし、その逆もまた真なりです。応援しています。					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	保健医療福祉総論				
担 当 者	味木 和喜子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.2	3.5	3.7	3.7	3.7	
学生へのメッセージ					
授業への様々なコメントありがとうございました。ご指摘の通り、広すぎる教室で、皆さんが後ろに座って、反応を受け取りにくく、やり辛さを感じながらの授業でした。manabaでの出席数と配布資料の残り数が合わないことも、気になっていました。座席指定にするなど、改善の余地があったと思います。今後の授業で心がけます。manabaでの学習シートは、他の講義ではうまく活用できた面もあったのですが、本講義では授業内容の違いもあり、十分に活用できなかったことは反省しています。授業内容にあわせて、よりよい学びにつながるよう改善に努めます。 保健医療福祉は、保健師はもちろんのこと、看護職としても、日常生活においても、健康を守り増進していくために必要な内容です。引き続き学びを深めていくことを期待します。					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	医療安全				
担 当 者	伊藤 洋志				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.2	4.2	4.2	4.1	4.2	
学生へのメッセージ					
本授業は、主として看護や臨床検査に関する医療安全について具体的・実践的な講義となるよう、臨床の現場でご活躍中の先生方にも担当に加わっていただいております。チーム医療の構成員として医療安全を考えるにあたっては、「看護師」・「臨床検査技師」の職能に関する相互理解が重要となります。よって、看護師および臨床検査技師に共通して求められる知識や技術についての講義を中心としつつ、ときに看護師もしくは臨床検査技師の専門分野にあたる内容が解説されました。 このことについて、看護学科の複数の受講生より「看護学科あるいは医療検査学科に偏った授業」、「臨床検査に関する内容は難解」という趣旨の「②改善すべき」というご意見をいただきました。具体的にどのような解説内容のことを指摘されているのかは不明ですが、必修科目の定期試験として受験される受講生の心情を鑑み、 1. 「看護師および臨床検査技師に共通して求められる知識や技術（この解説は、あなたの学科の専門分野でもある）」 2. 「（あなたの学科の専門分野ではないが）「看護師」・「臨床検査技師」の職能に関する相互理解のために知っておきたい内容」 3. （1 と特に 2 について）「定期試験では何がどのレベルまで問われるか（出題範囲）」 以上の点について、各回の授業時にもう少し明確に提示する工夫の必要性を感じました。このコメントを担当教員と共有したいと思います。 一方、受講生と教員の所属学科が異なる場合（看護学科の受講生が医療検査学科教員の講義、医療検査学科の受講生が岡光先生（看護師）の講義）でも、「わかりやすい」、「面白い」という趣旨の「①よいと思った」ご意見を複数いただきました。本授業の教育的な狙いとその取り組みが一定程度浸透しているのではないかと考えます。このようなご意見をさらに多くいただけるよう、次年度以降も授業改善に取り組んでいきたいと思っています。 （伊藤 洋志）					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3, 4		
科 目 名	養護概説				
担 当 者	十川 真由美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.8	4.8	4.7	4.7	
学生へのメッセージ					
前期授業に毎回積極的に参加してくれて、ありがとうございました！看護と養護では働く場所 は違いますが、危機感を持つこと、いつもシュミレーションしておくことは、かわりません。 ぜひ、今回の講義も思いだして、広い視野で学校、病院等で活躍して行って下さい					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	産業保健				
担 当 者	鮫島真理子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.0	3.9	3.9	4.0	4.3	
学生へのメッセージ					
前期授業での皆さまの積極的な参加がとても印象的でした。グループワークでの意見交換が素晴らしかったです。 産業保健について理解、知識を深めていただけて嬉しいです。引き続き頑張ってください。					